

令和6年3月11日  
学校法人美瑛青葉学園  
幼保連携型認定こども園びえい青葉幼稚園

## 幼保連携型認定こども園びえい青葉幼稚園の「学校評価」について

「学校評価」とは、普段の園の様子や教育・保育活動を知っていただいている方々や外部の学識経験者に保育の様子を見学いただき、本園の自己評価と保護者アンケートの結果等を参考に委員会を組織しご意見や提言をいただき次年度以降の教育・保育の質を高めることを目的に実施しています。

今年度の委員会は、委員長に札幌国際大学短期大学部学長の平野良明氏(以下委員長)、委員には今年度の保護者会会長と会計役員、前年度の保護者会会長の計4名で構成されています。

ご多忙の中アンケートにお答えいただいた保護者の皆様、本園関係者及び学校評価委員の皆様にご感謝申し上げますとともに、今後も幼児教育・保育に真摯に向き合い、将来にわたる「生きぬく力」の育み、「ねっこそだて」に取り組んでまいります。

本園学校評価委員会による報告書は以下の通りです。

### (はじめに)

2月22日、評価委員長を含む4名の委員と園より園長他3名の教員の参加により今年度の評価委員会が開催された。評価項目については当園の教育目標達成のための日々の実践について、また、日々の実践を取り巻く安全を含めた環境について確かめるものであった。

評価委員会開催にあたって、委員長は早朝より当園に出向き、登園する親子の様子や登園直後の各発達段階にある子ども達の様子を見た後、園長、副園長、主任からカリキュラムの実施状況と現状における課題等について聞き取りを行った。

なお、評価にあたって当園の概要に触れておく。

### (教育に関する概要)

#### ■ 教育目標

- ・ 自分で考え行動する子ども
- ・ とともに育ち合う子ども
- ・ 夢中になって遊び込める子ども

#### ■ 教育の特色 (子どもの主体性を育むために)

- ・ 遊び込める環境の提供
- ・ 四季の自然に触れる体験の提供
- ・ 異年齢児が関り、育ち合う環境の提供
- ・ 総合的活動としての和太鼓体験の提供      を重視した教育を行う
- ・ 1・2歳児保育の育児担当制

教育目標達成のために特色ある教育活動を、発達段階を踏まえて行い、人としての「ねっこを育てる」認定こども園である。

**(評価項目と評価)**

○ **挨拶から日常の遊び等を通した基本の育ち (Q1～Q4)**

親からの評価も、職員からの評価も高く、特に卒園までに、と願って教育活動を行っている職員にとって Q3.Q4 の親からの高評価は嬉しいものであろう。

評価 - A<sup>+</sup>

○ **行事を通した子どもの育ち (Q5～Q7)**

親からの評価は高く、参加した教員による自己評価も高い。

親の一部には行事や日々の教育活動の「ねらい」などにも関心を持っている層がいることから、育ちを見とる視点としての「10の姿」や教育保育要領の5領域のねらいである「心情・意欲・態度」について、発信の機会があっても良いと考える。

評価 A

○ **特色ある教育活動を通しての育ち (Q8～Q11)**

当園だからこそできる食育や自然体験、これは在園期間を通して毎年上書きされ、感性と将来の学びの基本となるものと期待されるものである。親からも職員においても評価が高く、次年度以降もさらに充実を期待している。

評価 A<sup>+</sup>

○ **日々の教育活動からの育ち (Q12～Q14)**

「10の姿」の重要な3部門、親からも職員からも高い評価で、特に親からはほぼ完璧な評価を得ている。

評価 A<sup>+</sup>

○ **園から親への情報提供 (Q15～Q17)**

職員からの評価も多くの親からの評価も高いが委員から「先生方は大変良くやってくれており評価はAだが園がどのような願いを持って日々、子ども達と向き合っているのかもっと詳しく知りたい、発信してほしい」の意見があった。「親の願いと職員の願いがすり合わされ、重なれば、もっと教育の成果が上がるのではないか」とさらに考えが示された。園での日々の教育活動や行事について、その「ねらい」の発信について検討いただきたい。

評価 A

○ **施設・設備と安全のための環境 (Q18～Q21)**

職員評価はどの項目も高い。園側としては施設の安全に関して、親からのA評価が昨年比で減少していることについて、点検や修繕が重ねられていることなど、しっかりと親に発信したいとの自己評価があった。

評価 A

以上、評価委員は評価項目を6つに分けて評価した。

委員からは

- ・ 「親の願い」と「職員の願い」のすり合わせの大切さ
- ・ 親と職員のコミュニケーション増への期待
- ・ 北海道内の幼児教育のモデル園となれるようにこれからも頑張ってもらいたい
- ・ 特色ある菜園活動や味噌づくりは子どもの好奇心を引き出し、学びの楽しさを引き出し心の成長にも結びつく。またこれらの活動が家庭においても親子の豊かなコミュニケーションに結びつき、とても良い活動と思う。
- ・ 園の教育目標も達成している。
- ・ このような幼稚園の教育に満足している。 等の評価意見が述べられた。

### 【総合評価】

項目別評価において「A+」が3つ、「A」が3つであるが、委員からの評価とコメントを元にした総合評価は 「A+ (エープラス)」とする。

### (終わりに)

進化を止めない園である。教育を取り巻く環境は情報教育環境の変化と共に複雑さを増しているが、当園は「人の本質」への理解を踏まえ「幼児期に必要な力」を「ねっこそだて」と、確かな理念として掲げ、教育要領等が期待している「遊びを通して」「環境を通して」子ども達に「5感に響く直接体験」を提供し続けている。

園長を含め、生き生き動く職員集団は謙虚で、常に先進園や異なる園に学ぶ姿勢を持っており、当園がより良く変わっていくためのヒントを探し、学び続けている。

異年齢での育ち合いとその集団の見取りにおいて、積み重ねてきた実績は大きく、これを今後とも継続してもらいたい。訪問時に行われていた2歳児のホットケーキ作りと4歳児へのご招待は子ども園としての好事例である。今後また、工夫を通して過重労働にならない範囲で子ども達「個々の見とり」と、これからの当園の「インクルーシブ教育」について研鑽を深めてもらいたいと願い、今年度の評価とする。

評価委員長 平野 良明  
(札幌国際大学短期大学部学長)  
委員 西森 静香  
(令和4年度保護者会会長)  
委員 西永 優子  
(令和5年度保護者会会長)  
委員 森谷 めぐみ  
(令和5年度保護者会会計)